令和４年度　学校防災教育実践モデル地域研究事業

愛媛県立伊予農業高等学校

１　取組の目的

（１）　南海トラフ地震や津波の被害など想定される災害について正しく理解する。

（２）　災害に対する危機意識を高め、自他の命を守るために主体的に行動できる能力を身に付ける。

（３）　減災につながる社会づくりの重要性を認識し、地域と連携し貢献できる実行力を身に付ける。

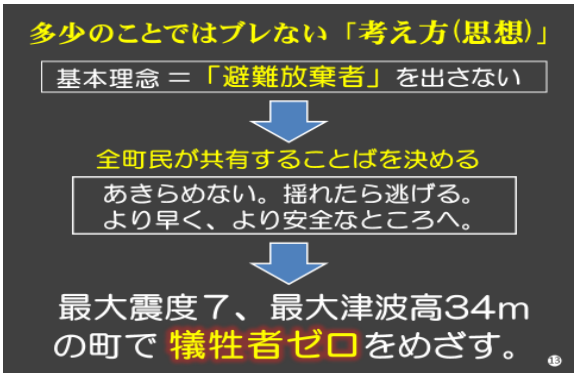
（４）　災害時に求められる学校の役割を理解し、教職員の資質･能力の向上につなげる。

２　取組の内容

防災先進地域の視察　　８月 25 日（木）～26 日（金）

黒潮町役場　（高知県幡多郡黒潮町）

黒潮町は高知県西南部に位置し、約 5400 世帯、人口１万 500 人の長い海岸線を有する美しい町であるが、南海トラフ地震で莫大な被害が出る想定を受け、災害に対する根本的な意識改革とハード面の整備を行っている実際を情報防災課でうかがうとともに、日本でも最大級の佐賀地区津波避難タワーを見学した。



高知市立潮江中学校　（高知県高知市塩屋崎町）

潮江中学校は高知市の中心部の南に位置し、校区は海抜わずか 70cm で、地震発生時には液状化に加え、地盤沈下と津波で水没の可能性があり、過去にも津波で地域全体が１ヶ月以上水没した歴史がある。こうした背景を受け、「自分の命は自分で守る」主体的な行動のできる生徒の育成を目指した防災教育を実践していた。

緊急地震速報受信システムを利用した予告なし避難訓練　　9月7日（水）

7月28日(木)本校放送室に、緊急時にFM放送を受信すると校内放送設備と連動する緊急地震速報受信システムが導入された。それを受け9月7日運動会予行の昼休み時間に、システムの作動確認を兼ねた予告なしの避難訓練を実施した。

実習地における避難訓練　　11月　　実習時間に実施

本校は細分すると9カ所の実習地があり、それぞれの学科でほぼ毎週、実習を行っている。正門前や本校南側の庭園実習地など隣接する場所もあれば、自転車やバスを利用して移動しなければならない遠隔地にも実習地があり、災害時の対応が懸念さていた。今年度、初めて11月に実習時間を利用して主な実習地で避難訓練を実施し、改めて避難経路や場所、AED、災害後に提供できるような用具等の確認ができた。また建造物の老朽化による危険性、地形的な問題による避難の困難さや学校との連絡の方法などの問題点も浮き彫りになった。

農業祭展示　　11 月 12 日(土)～13 日(日)

今年度も感染症予防のため一般公開は見送られ、本校生徒の保護者及び地域の中学生とその保護者を対象にこれまでの防災の取り組みの成果を展示、発表した。環境開発科による今回最大の製作品として展示された「防災かまどベンチ」が注目を集めていたほか、保健委員会による防災マップや資料などの展示や 100 円均一グッズで作る避難持ち出し袋の作成、家庭クラブによる伊予市防災フェアへの参加報告、防災ボトルの作成やパッククッキングについて展示を行った。日頃の活動を発表・展示することで、防災に対する意識や関心の輪を生徒・保護者に広げることができた。

自衛隊による防災避難体験学習会　　11 月 23 日(水)

本校生徒に加え、伊予中学校・港南中学校の生徒と引率の先生方、本校 PTA の役員の方にも参加していただき、実際に災害現場で救助活動や支援活動を行っている自衛隊の皆さんに来校いただき学習会を実施した。全体での講演会の後、3 つのグループに分かれて災害時に実際に使用している車両の見学、被災地でのけが人への対処、装備品や備蓄品についての説明と体験を行った。普段は目にすることのない被災現場の実態を体感することができ、たいへん興味深く有意義な学習会となった。

シェイクアウトえひめ　　12 月 19 日(月)

　例年通り、県下一斉実施の日時に合わせて、シェイクアウトえひめに参加した。各 HR 教室で安全確保行動をとった後、放送によって HR 単位で運動場に避難し、地震発生時の安全確保行動の確認や防災意識ついて説明した。今年度はここからさらに、浸水の可能性が発生したと仮定し、校舎の階上へ移動、2、３階の教室で点呼をとって終了した。本校では垂直避難の訓練も初めてだったが、生徒達はその意義を理解した上で戸惑うことなく、落ち着いて行動できていた。今後は津波到達時間を考慮し、校外の高台への避難も実施していきたい。

3　取組の成果

○ 今回の事業を通して、まだ十分とはいえないが地域の行政や関係者の皆さんや中学校との関係が構築できたことは大きな成果であり、今後も継続して連携をとりながら防災教育の実践に取り組んでいきたい。

○ 緊急地震速報受信システムを活用した予告なしの避難訓練やこれまで懸案事項であった実習地における避難訓練などを通していざという時の行動を生徒・職員ともに改めて確認することができた。

○ 例年以上に１年間を通して学校全体として防災について考えたり、実践する機会を様々な形で共有できたことで生徒・職員全体で防災に対する知識や意識を高めることができた。

○ 委員会・生徒会・部活動において防災に関する様々な研究や研修に取り組むことによって、各自が積極的に意識の向上に努め、防災活動の核になる生徒が着実に育成されてきた。

4　今後の課題

○ 今年度の取り組みを来年度以降も継続し、さらに防災に対する意識を高めていくとともに、日常からの防災活動を継続、改善してより実践的な行動に結びつけていきたい。

○ アンケートの結果から、各自の居住地における防災事情をふまえて、家庭での関心や取り組みを促し、家庭や保護者を巻き込んだ形での防災教育についても考えていきたい。

○ 本校独自の学科の特色生かした研究が具体的な形で成果を出すことができなかった。今後も継続して地域や社会に貢献できるような成果を目指していきたい。

○ 校内における災害時の備品の充実や生徒個人の緊急時の備蓄品については、来年度以降も内容や保管場所などを検討していきたい。

○ 市内唯一の県立高校として地域との連携をより深くして、地元の高校として、また高校生として地域においてどのような役割を果たすべきか、どのような貢献ができるかを今後も考えていきたい。